

第9回

道の駅/日本風景街道/道守/が地域連携を考えるシンポジウム

語ろうみんなで!!
ティーパーティー 3つの輪

「災害」と 「道の駅」

開催日
令和6年 3月6日 水

—3つの輪が今からできること—

主催：“語ろうみんなで！3つの輪”実行委員会
会場：J:COM ホルトホール大分202 会議室

時間：13：30 ～ 15：45

【参加方法】会場・Webオンライン



第1部
基調講演

13:40～14:00 (20分)

「道の駅」第3ステージ 防災拠点とネットワーク

筑波大学名誉教授/
「道の駅」第3ステージ推進委員会 委員長 石田 東生 氏



道の駅は、3つの機能（駐車場・24時間使えるトイレ・情報提供施設）を条件に整備され、1993年に正式にスタートした。第1ステージでは、幹線道路を通過する利用者に対して休憩・トイレ・情報等のサービスを提供する場として活用、第2ステージでは単にサービスの提供にとどまらず、地域の特性を活用した魅力ある拠点へと変遷していった。当初道の駅は防災の役割を想定されていなかったが、2004年中越地震時の道の駅の活用を機に防災機能が注目され、2010年東日本大震災時の活躍もあり、防災拠点としての活用が進んだ。昨今では、地域活性化や災害時の拠点としてネットワークを広げ、さらなる飛躍を目指す第3ステージへ移行している。

道の駅第3ステージにおいては、道の駅を世界ブランドにすること、新「防災道の駅」を整備すること、地域のコミュニティセンターとしての機能を持つことを目標に掲げている。防災機能に関して、全国39駅が防災道の駅に選定されており、耐震化や無電柱化などの施設整備が進んでいる。防災道の駅は各県1駅以上選定されていないため、平時から各道の駅が連携を取り合い、非常時には防災道の駅が拠点となって災害に立ち向かう必要がある。非常時のスムーズな連携のためには、平時からのコミュニケーションが大切である。

道の駅、道守、日本風景街道の3者が持つ特徴を生かし、相互にメリットがある形で連携のストーリーを考え、連携の輪を広げていくことを期待する。

第2部
報告

南海トラフで起きること 能登半島地震 九州地方整備局の活動報告

九州地方整備局 統括防災官 今田 一典 氏



2024年能登半島地震発生後、15の道の駅が営業ができなくなったが、水やトイレの提供、自衛隊や国交省の道路啓開や物流の拠点として機能し、県外道の駅から支援されたコンテナトイレ等の活用も確認された。南海トラフ地震が発生した場合、大分県の被害は甚大なものと予測される。国交省では、テックフォースの出動計画や被災想定調査等に取り組んでいるが、まずは各々が災害は起きるものであると認識し、災害時のとるべき行動や災害時における道の駅の機能、道の駅ができること等を議論していく必要がある。

プロ
グラム

ご挨拶

“語ろうみんなで！” 3つの輪実行委員会 会長
九州地方整備局 大分河川国道事務所 所長
河崎 拓実 様

パネルディスカッション 14:25～15:35 (70分)

震災からみた「道の駅」の機能と それぞれの役割

道の駅 国上駅長（新潟県）／全国「道の駅」女性駅長会会長
加藤 はと子 氏

道の駅みえ 駅長／大分県道の駅駅長会会長
全国「道の駅」女性駅長会
後藤 節子 氏

おおいた・いとでんわプロジェクト 代表
NPO 法人 地域ひとネット
谷川 真奈美 氏

日本風景街道 おおいた海への道 事務局長
NPO 法人日本風景街道コミュニティ 代表理事
加藤 千明 氏

道守大分会議 事務局長／九州風景街道 サポート+
木ノ下 結理 氏

基調講演 13:40～14:00 (20分)

「道の駅」第3ステージ防災拠点と ネットワーク

筑波大学名誉教授/「道の駅」
第3ステージ推進委員会 委員長 石田 東生 氏

報告 14:00～14:15 (15分)

南海トラフで起きること 能登半島地震 九州地方整備局の活動報告

九州地方整備局 統括防災官 今田一典 氏

いつか来る災害のために 他人事ではない 自助・共助・公助の役割
いざというときのために繋がっておこう 私たちにできること

第3部

パネルディスカッション

14:25～15:35 (70分)

震災からみた「道の駅」の機能と それぞれの役割



道の駅 国上駅長（新潟県）／
全国「道の駅」女性駅長会会長
加藤 はと子 氏

道の駅の規模や形態に応じて、
非常時は避難所として被災者
をサポートする責務がある。

遠方の被災地であっても、
道の駅で販売支援・募金
等の取り組みができる。



道の駅みえ 駅長
大分県道の駅駅長会会長
全国「道の駅」女性駅長会
後藤 節子 氏

有事のために日ごろから関
係性を構築し、周囲と連携
することが重要である。



おおいた・
いとでんわプロジェクト 代表
NPO 法人 地域ひとネット
谷川 真奈美 氏



日本風景街道 おおいた海への道
事務局長
NPO法人日本風景街道コミュニティ代表理事
加藤 千明 氏

連携とはバクトルの違うみんな
の力を合わせて、緩やかに
うまくやっていくことである。

能登半島地震発生後の支援は、
複数の道の駅が迅速に連携し
て取組んだ成功例である。



道守大分会議 事務局長
九州風景街道 サポート+
木ノ下 結理 氏